

その1

【歴史に学ぶ(歴史は形を変えて繰り返す)】

# 明治維新への道



井伊直弼

- 今月号①
- 1 黒船来航
  - 2 日米和親条約
  - 3 桜田門外の変
  - 4 蛤御門の変
  - 5 薩長同盟
  - 6 官僚的組織の限界 (企業組織への教訓)
- 来月号②
- 7 大政奉還
  - 8 明治維新とは(まとめ)
  - 9 明治維新により近代国家に変貌
  - 10 戦いには大義名分が必要 (企業経営にも通じる)

## 1 黒船来航

江戸幕府が開かれてから230年が経った頃、圧倒的武力で支配を続ける徳川幕府に対する不満は徐々に広がりつつあった。

そんな中、ついに黒船が浦賀(神奈川県)にやってきた。アメリカの使節ペリーが浦賀に来航(軍艦4隻)して開国を要求した。この軍艦には大砲がついており、ペリーはその火力で幕府を脅し開港を迫った。しかし、幕府は即答できなかった(朝廷から勅許「ちよつきよ...天皇の許可」を貰わなければならないため)。

翌年ペリーは再び来航し、幕府は圧力に負けて日米和親条約を結んだ。

当時朝廷は、外国(当時、外夷「がいい」と呼んでいた。外夷は外国をいやしめた言葉)を嫌っており、「外夷は打ち払え」などと言っていた。幕府は外国の圧力と朝廷との間で板挟みになった。

## 2 日米和親条約

下田(静岡県伊豆)・函館の2港を開いて、アメリカ船に食料

成功した。この仕打を不服とした長州藩は武力で京都を奪還しようとしたが、幕府とその味方

についた薩摩藩により長州藩は敗北した。これを蛤御門の変(はまぐりごもんのかん)という。幕府は長州藩を完全に取り潰してしまおうと考え、二度にわたって長州征伐を行ったが二度目は失敗に終わった。これには、松平村塾出身の高杉晋作(長州藩)、坂本龍馬(土佐脱藩浪士)の活躍や、薩長同盟、幕府の威厳低下などが理由にあげられる。

## 5 薩長同盟

坂本龍馬が仲介をし、薩摩藩の西郷隆盛(さいごうたかもり)・大久保利通(おおくぼとしみち)と、長州藩の桂小五郎(かつらごころう)らが軍事同盟を結び、倒幕の計画を進めた。

徳川家茂(とくがわいえもち)が病死し徳川慶喜(とくがわよしゆき)が第15代将軍となるが、倒幕派の勢いは止まらない。

薩摩藩、長州藩に味方し、討幕を画策する公家の岩倉具視(いわくらともみ)は、まだ幼い明治天皇から倒幕の勅許(ちよつきよ)を得るために工作を行った。



中小企業診断士・  
社会保険労務士・販売士  
**大野実雄氏**

●プロフィール(オオノ ジツオ)  
メーカー、経営コンサルティング  
メーカーを経て事務所開設。「変化  
には変化でしか対応できない」を  
企業支援の基本としている。著書  
に「売れるように売れば必ず売れる」  
「働き方・生き方こころの軸」  
「勝つ企業」等がある。

や燃料を与えることを約束。その後ロシア・イギリス・オランダも和親条約を結んだ。これにより日本の鎖国は終了する。

この時から、尊王攘夷(そのうじょうい)という言葉が武士の間で流行する。尊王とは、天皇を尊ぶこと。攘夷は外夷を打ち払うということ。天皇を尊び外夷を打ち払うという意味。

黒船が来航したことにより、武士は幕府側(佐幕派)と、さばく(は)と尊皇攘夷派(朝廷側)の2つに意見が別れた。これが後の討幕、明治維新につながっていく。江戸幕府滅亡までの30年間を幕末という。

倒幕のために日本人同士が殺し合い疲弊することが日本のためにならないと思った坂本龍馬は、土佐藩の後藤象二郎(ごとうしょうじろう)に大政奉還(たいせいほうかん)の案を託す。

## 6 官僚的組織の限界 (企業組織への教訓)

経営における組織とは、組織を構成する社員が自己の役割を円滑・スピーディーに行動するためにある。江戸幕府の官僚的組織は内外の課題に対して「問題の先送り」が常態化していた。江戸幕府を必死に守ろうとしたが現状の延長線上での「改善」に終始していた。幕末当時では「改革」なくして解決はできなかった。

**\*改善とは、考え方は同じでやり方を変える。**  
**改革とは、考え方もやり方も変えること。**

歴史は、今を経営する者がより良い事業を展開するために、先人が遺してくれた経営の鑑(かたみ)でもあります。

\* 史実は諸説あります。本文とは異なる説もありませんのでご了承ください。  
\* イラストはイメージです。  
\* 参考文献「明治維新革命」彰流社 「明治維新」岩波書店

## 4 蛤御門の変

尊皇攘夷活動で最も過激だったのは長州藩(山口県)であった。京都で朝廷を抱えこみ、討幕を狙っていた。薩摩藩はこの活動を危険視し、会津藩と組んで長州藩を京都から追い出すことに

## 3 桜田門外の変

井伊直弼(いいなおすけ)が大老(たいろう)・將軍の補佐役、最高職)になると、幕府に対抗する勢力を次々に捕らえ、処刑していった。

井伊直弼が朝廷の許可なく外国と通商条約を結んだことを批判する武士に対して行った虐殺で、これを安政の大獄(あんせいのだいごく)という。安政の大獄で処刑されたのは2年間で100人以上である。吉田松陰もこの時殺されている。

大虐殺を行った井伊直弼は尊王攘夷派の武士に恨みを買ひ、桜田門外で暗殺された。大老が暗殺されるといふ大事件に幕府の威厳が失われ、いよいよ時代は討幕へと移っていく。この事件を「桜田門外の変」という。